



患者さんの家の田んぼで日に育つ稲。軒先につるしてある芋がら(いわゆる「ズイキ」です。私はここに来るまで知りませんでした)。時には猛暑極寒の患者さんのお宅で身につきまされることもありですが、自然を肌で感じられる美和は本当に良い所です。

BGMは懐メロ

私は昨年四月から、ここ美和にある常陸大宮市国保美和診療所に勤務しています。診療所がある所は栃木県那須烏山市から自家用車で十五分。医療過疎地域、すなわち「へき地」と呼ばれている地域です。

うすい たかのぶ
薄井 尊信 22期生、1999年卒

自然豊かな土地に建つ常陸大宮市国保美和診療所



常陸大宮市国保美和診療所

【私の勤務地】1975年4月に開院。内科、外科、小児科、歯科を標榜(ぼう)している。医科については82年以降、自治医大の卒業生が交代で赴任している。月ごとの患者数は1000人前後で、このうち往診、訪問診療は70人。

土地に合ったやり方学ぶ

優しく温かい方ばかりです。昼食も取れずに来るまで知っている「先生、大変だね。あんまり無理しないでくれよな」の患者さんだ。来てから

もう四時間もお待ちしているというのに。また、往診先で「いやー、忙しいところ来てもらって助かった。本当にありがとう」と言ってくれた患者さん。医師冥利(みょうり)に尽きるはこのことでしょう。

後方支援に感謝

私が良かれと思ってしたことですが、患者さんたちの満足は得られなかったというわけです。自分勝手な思い込みでした。その土地に合ったやり方で患者さんに接しないといけないのだということ、赴任早々、実感させられた出来事でした。

ところで、こんなこともありましたが、これまで勤務していた病院に比べて、診療所の待合室でクラシック音楽をかけるようにしたのです。患者さんたちは私には何も言ってくれませんが、ベテランの看護師には「待合室の曲がうるさいね」と言っていたのだそうです。

最後に、こんな私を支えてくれるスタッフや私を受け入れてくださった美和の患者さんにも本当に感謝しています。(次回予定は愛媛県)